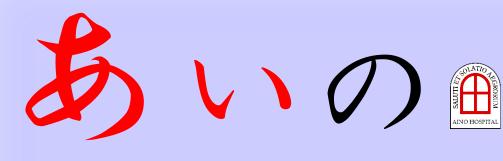
医療法人 恒昭会 藍野病院





Vol. 53



特

薬剤部

(診療科紹介22)

お知らせ 院長就任のご挨拶 つめきり看護外来 あいのまちの保健室 メタセコイア伐採

「薬剤部」

薬剤部には11名の薬剤師と2名の薬剤師補助、合計13名が所属しています。今回は、病院薬剤師の主な業務内容についてご紹介します。



- ① 調剤:調剤とは、医師の処方箋に基づき医薬品を調合することですが、実は単に薬を取り揃えるだけではありません。患者のアレルギー歴、副作用歴、薬歴を確認し、安全な投与が可能なのかをまず確認しています。腎機能、肝機能、年齢を考慮すべき薬剤が処方された場合には、患者データを確認し投与量の修正を医師に提案します。
- ② 医薬品在庫管理:当院の採用医薬品数は約1500品目です。 そのうち1200品目の在庫を常備し、毎月900品目の薬品 を購入しています。医薬品の購入金額は病院の支出の中で も大きなウエイトを占め、その使用期限も数年単位と短い ため、適正な在庫の確保と病棟への無駄のない潤滑な供給 を常に考え、購入量を検討しています。
- ③ 医薬品情報提供(DI活動):患者に安全な薬物治療が実施されるようスタッフに向けてお薬についての情報をわかりやすく提供しています。皆さんが介入している患者や、ご自身、ご家族のお薬について深く知りたいと思われた方は、いつでも薬剤師にご質問ください。
- ④ 抗がん剤調製:外来、入院を含め院内で実施される全ての 注射用抗がん剤を薬剤部内の安全キャビネットで無菌的 に調製しています。これは、看護師等が病棟で調製する場 合に考えられる職業曝露リスクの低減に繋がっています。
- ⑤ 服薬指導(薬剤管理指導業務):入院中の患者に、薬の正 しい使用方法・服薬の意義などを理解していただき、安全 に治療を継続していただくためベッドサイドで薬の説明 を行い、患者の薬に対する不安や疑問の解決などのサポ ートをしています。





⑥ チーム医療:職種の枠を超えて様々な活動を行う委員会活動には、医療人としての自覚を高める、職員同士の相互理解を深める、医療チームの基盤を作り上げるなどの多くのメリットがあり、薬剤師も積極的に参加しています。(感染対策、認知症、糖尿病、パーキンソン、褥瘡、栄養管理など)

このように、調剤室だけではなく病院全体に活動範囲を拡げ、患者に寄り添い他職種と協働できるコミュニケーション能力の高い薬剤師を目指し業務展開しています。

院長就任のご挨拶

この度、新しく院長に就任した山本直宗です。

現在、藍野病院は18診療科を擁した900床あまりを有するケアミックス病院として地域医療の一端を担っています。具体的には爆発的に数が増加すると予想される高齢者医療やCOVID-19などの新規感染症の流行、関連病院の藍野花園病院や近隣の精神科病院との連携をよりスムーズにしたリエゾン医療、地域のクリニックや施設などのバックベッドとしての病診連携など社会の変化に対応しながら、体制を整え地域医療に貢献していく方針です。また画像検査などの拡充も図りオープン検査など気軽に引き受ける開かれた医療ソースとしての役割も担っていきたいと思います。

周りの関係者皆々様の、これからのご指導ご鞭撻、よろしくお願い致します。



院長 山本 直宗







専任看護師が担当します!

令和5年4月よりつめきり看護外来を始めました。 厚くて切れない爪や変形している爪、たこやうおのめでお困りの 方はご相談ください。







足浴 保湿・マッサージ



あいのまちの保健室

~はつらつ長寿をめざして~



令和 5 年 5 月 21 日 (日) に藍野病院にて、「あいのまちの保 健室」を開催いたしました。

身体測定、健康相談、呼吸の相談室、物忘れなんでも相談、各種健康チェック等たくさん企画させていただきました! 多数のご参加ありがとうございました!

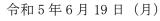












藍野病院の敷地内に植えられている樹齢 40 年以上の 針葉樹メタセコイアを伐採いたしました。

大きくなりすぎたメタセコイアの高さは約 30 m あり、 伸びた枝が落下し危険なことから伐採が決まりました。



入院のご相談は「地域医療連携センター」まで TEL:072-627-7611代) FAX:072-627-3627

発行:医療法人 恒昭会 藍野病院 発行責任者:山本 直宗 発行編集者:広報委員会 代表 出口 敬士 ホームヘーシ http://www.koshokai.or.jp/aino メールアドレス aino-hp@koshokai.or.jp